

平成23年11月16日

各位

会社名 ユニチカ株式会社  
代表者名 代表取締役社長 安江 健治  
(コード番号 3103 東証・大証各第一部)  
問合せ先 IR広報グループ長 松山 裕  
(TEL 06-6281-5695)

(訂正) 2011年度 第2四半期決算説明会資料の一部訂正について

平成23年11月16日に開示いたしました標記資料について下記のとおり訂正がありましたのでお知らせいたします。

記

14ページ

2011年度通期業績予想

訂正箇所(訂正部分に下線を付しております。)

【訂正前】

(金額単位:億円)	2010	2011	前期比
	実績	予想	増減
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・
<b>四半期純利益</b>	24	35	11

【訂正後】

(金額単位:億円)	2010	2011	前期比
	実績	予想	増減
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・
<b>当期純利益</b>	24	35	11

以上

# 2011年度 第2四半期決算説明会

2011年度は「改革'11」の総決算  
～高分子の下支えと繊維の立て直しで、営業利益19%増を目指す～



2011年11月16日

代表取締役社長 安江健治

**ユニチカ株式会社**

## 1. 2011年度第2四半期決算概要

- ・グループ事業構成
- ・セグメント別業績の推移(2007年度以降上期業績)
- ・業績の概要
- ・セグメント別業績の概要
- ・営業利益増減要因分析
- ・資産・負債・純資産

## 2. 各事業セグメントの状況と通期予想

- ・高分子セグメントの状況
- ・機能材セグメントの状況
- ・繊維セグメントの状況
- ・その他セグメントの状況
- ・2011年度通期業績予想
- ・2011年度通期業績予想 セグメント別収益変動

## 3. 次期中期計画(2012～2014年度)について

補足資料～ユニチカの事業の特徴

## 1. 2011年度第2四半期決算概要

- ・グループ事業構成
- ・セグメント別業績の推移(2007年度以降上期業績)
- ・業績の概要
- ・セグメント別業績の概要
- ・営業利益増減要因分析
- ・資産・負債・純資産

## 2. 各事業セグメントの状況と通期予想

- ・高分子セグメントの状況
- ・機能材セグメントの状況
- ・繊維セグメントの状況
- ・その他セグメントの状況
- ・2011年度通期業績予想
- ・2011年度通期業績予想 セグメント別収益変動

## 3. 次期中期計画(2012～2014年度)について

補足資料～ユニチカの事業の特徴

# グループ事業構成

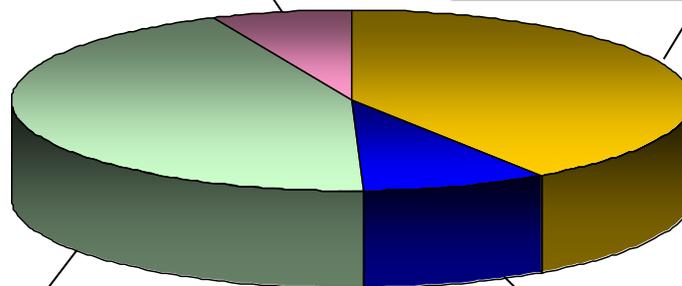
## その他事業（売上高構成比 7 %）

- ◆生活健康 医用材料  
健康補助食品 等
- ◆不動産関連
- ◆その他 設備技術  
情報システム  
環境分析 等

## 高分子事業（売上高構成比 41 %）

- ◆フィルム ナイロンフィルム  
ポリエステルフィルム
- ◆樹脂 ナイロン樹脂  
ポリエステル樹脂  
ポリアリレート樹脂
- ◆不織布 ポリエステルспанボンド  
綿спанレース

2011年上期  
連結売上高  
871億円



## 繊維事業（売上高構成比 44 %）

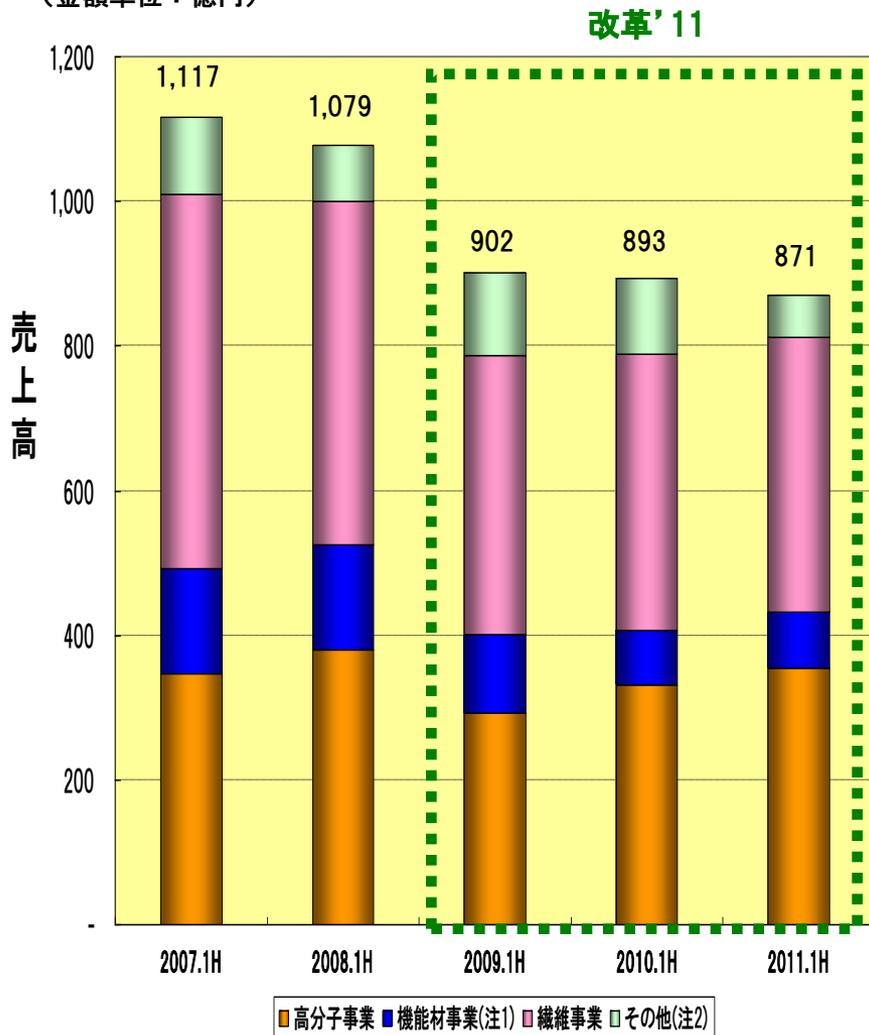
- ◆産業繊維 ポリエステル高強力糸  
ポリエステル短繊維  
ビロン繊維 等
- ◆衣料繊維 ユニフォーム  
一般・婦人衣料素材  
スポーツ衣料素材 等

## 機能材事業（売上高構成比 9 %）

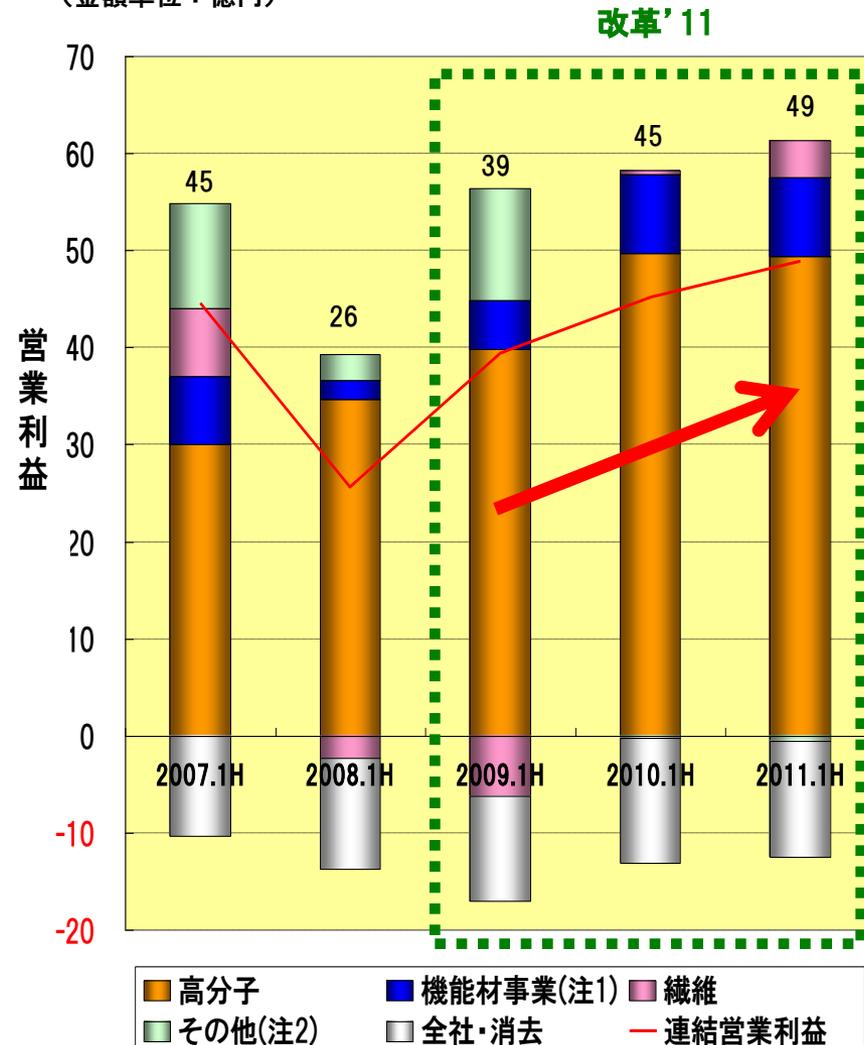
- ◆ガラス繊維
- ◆ICクロス
- ◆ガラスビーズ
- ◆活性炭繊維

# セグメント別業績の推移 (2007年度以降上期業績)

(金額単位：億円)



(金額単位：億円)



注1:2010年1H以降は、「環境・機能材事業」が「機能材事業」セグメントに変更。

注2:2010年1H以降は、「環境事業」が「その他」セグメントに編入。

# 業績の概要 (2011年上期)

(金額単位:億円)	2010.1H		2011.1H		前年同期比		当初予想比	
	実績	当初予想	実績	金額	率	金額	率	
売上高	893	850	871	▲ 22	-2%	21	2%	
営業利益	45	45	49	4	8%	4	9%	
経常利益	22	25	26	4	16%	1	4%	
四半期純利益	11	10	10	▲ 1	-10%	0	4%	

- ◆【売上高】震災による景気落ち込みの影響もほぼなく、フィルムを中心に販売数量伸長。前年同期比では、環境プラント事業譲渡(▲27億円)などがあり、それら要因を除くと増収傾向。
- ◆【営業利益・経常利益】コスト削減等による繊維の改善により増益。高分子、機能材は原燃料価格高騰の中、価格改定、包装フィルム・綿スパンレースの売上げ伸長があったものの、前年同期並みとなった。
- ◆【第2四半期純利益】税金費用の増加により、前年同期並みとなった。

# セグメント別業績の概要 (2011年上期)

(金額単位:億円)	2010 1H	2011 1H	前年同期比 増減
<b>連結売上高</b>	<b>893</b>	<b>871</b>	<b>▲ 22</b>
高分子事業	331	354	23
機能材事業	75	78	2
繊維事業	383	381	▲ 2
その他	104	59	▲ 45
<b>連結営業利益</b>	<b>45</b>	<b>49</b>	<b>4</b>
高分子事業	50	49	▲ 0
機能材事業	8	8	0
繊維事業	0	4	3
その他	▲ 0	▲ 1	▲ 0
<b>全社・消去</b>	<b>▲ 13</b>	<b>▲ 12</b>	<b>1</b>

【高分子】  
〔増収・利益横ばい〕

包装フィルムが増収を牽引。

【機能材】  
〔増収・利益横ばい〕

ガラス繊維、活性炭繊維は堅調。

【繊維】  
〔減収・増益〕

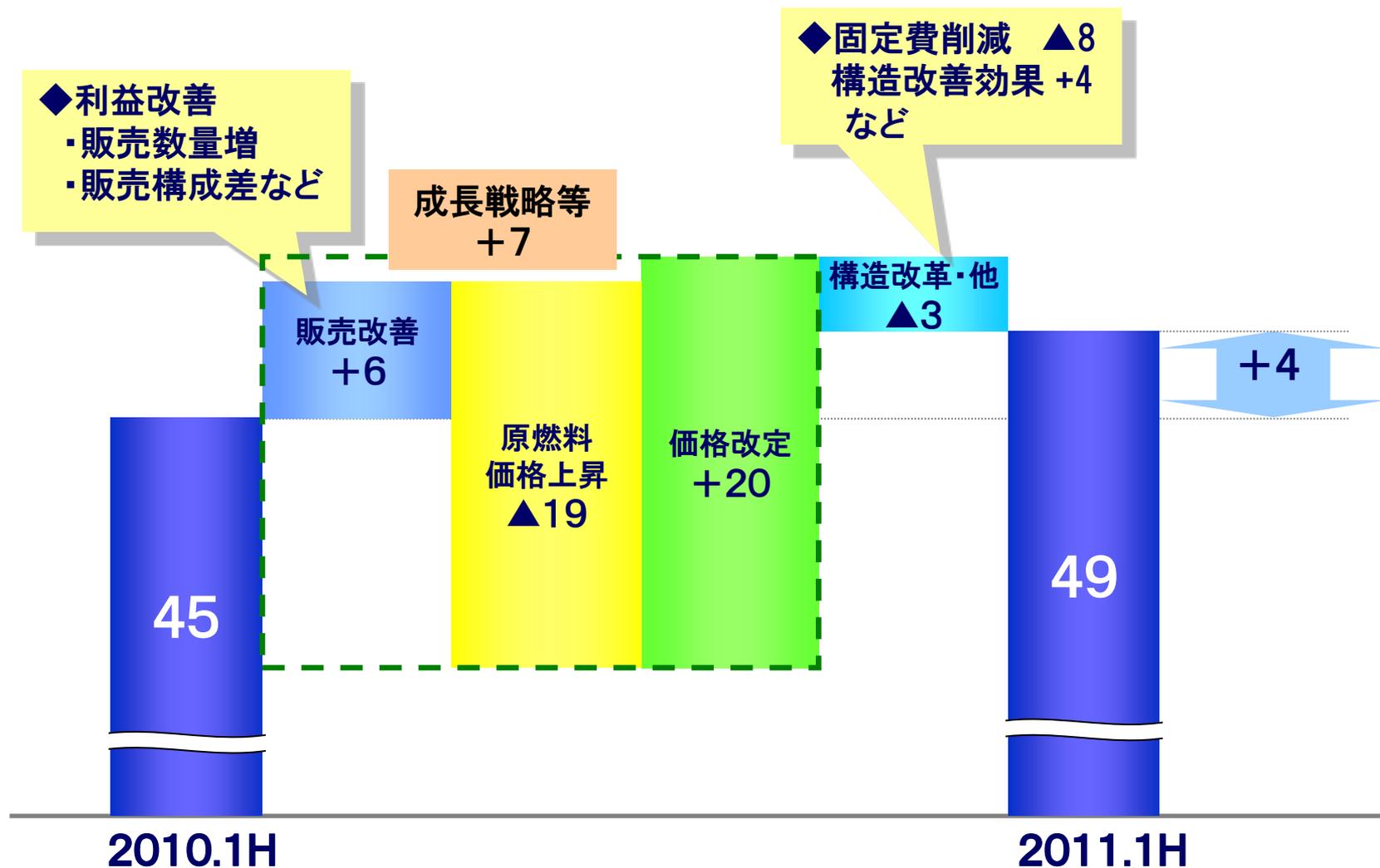
衣料繊維の採算が改善。

【その他】  
〔減収・利益横ばい〕

環境プラント事業譲渡などで減収。

# 営業利益増減要因分析

(金額単位:億円)



(金額単位:億円)		2011.3	2011.9	増減
<b>資産合計</b>		2,687	2,793	106
	流動資産	1,096	1,177	82
	固定資産	1,592	1,616	24
<b>負債合計</b>		2,428	2,470	42
<b>純資産合計</b>		260	324	64
	株主資本	235	295	60
	その他の包括利益累計額	▲ 11	▲ 9	3
	少数株主持分	36	37	1
<b>有利子負債</b>		1,826	1,873	48
<b>自己資本比率</b>		8.3%	10.3%	1.9%

## 1. 2011年度第2四半期決算概要

- ・グループ事業構成
- ・セグメント別業績の推移(2007年度以降上期業績)
- ・業績の概要
- ・セグメント別業績の概要
- ・営業利益増減要因分析
- ・資産・負債・純資産

## 2. 各事業セグメントの状況と通期予想

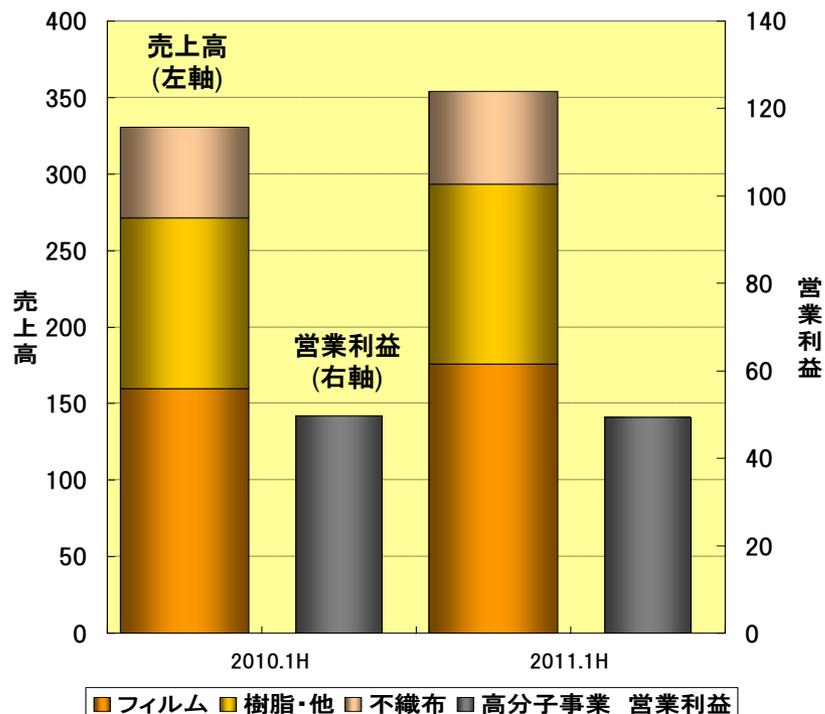
- ・高分子セグメントの状況
- ・機能材セグメントの状況
- ・繊維セグメントの状況
- ・その他セグメントの状況
- ・2011年度通期業績予想
- ・2011年度通期業績予想 セグメント別収益変動

## 3. 次期中期計画(2012～2014年度)について

補足資料～ユニチカの事業の特徴

## 主力のフィルムが順調に伸長

(金額単位:億円)	2010.1H	2011.1H	増減
高分子事業 売上高	331	354	23
フィルム	160	176	16
樹脂・他	112	117	6
不織布	60	60	1
高分子事業 営業利益	50	49	▲ 0



### □フィルム 〔増収・増益〕

#### ◆包装分野

ナイロンを中心に、期を通じて活発な需要に支えられ増販。

#### ◆工業分野

IT・液晶関連の生産調整影響、当社設備改造に伴う一時的な減産等により減収。

◆価格改定により採算性は維持。

### □樹脂・他 〔増収・減益〕

◆ナイロンは自動車減産影響と原燃料価格高騰の影響で苦戦。

◆ポリエステルはボトル用途の売上縮小と原燃料価格高騰の影響で、接着剤用途伸長あるもカバーできず採算悪化。

◆ポリアリレート樹脂「Uポリマー」は、事務・電気機器用途で堅調に推移。

### □不織布 〔増収・利益横ばい〕

#### ◆ポリエステルспанボンド

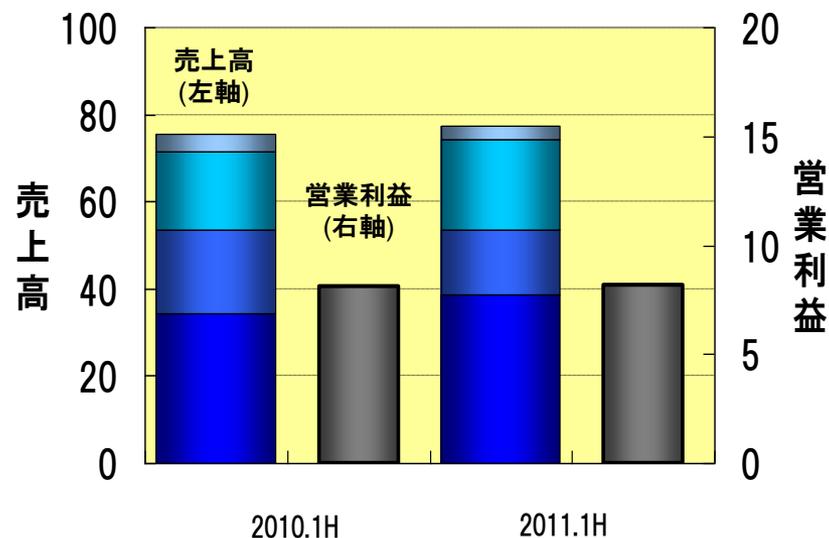
農業・ルーフィング・土木用途は堅調も、自動車減産・原燃料価格高騰・円高の影響で苦戦。

#### ◆綿спанレース

節電対策下、ウェットシート用途が好調に推移。

## ガラスビーズの苦戦を全体でカバー、収益を確保

(金額単位:億円)	2010.1H	2011.1H	増減
機能材事業 売上高	75	78	2
ガラス繊維/ICクロス	34	39	4
ガラスビーズ関連	19	15	▲4
活性炭繊維関連	18	21	3
その他	4	3	▲0
機能材事業 営業利益	8	8	0



■ ガラス繊維/ICクロス    ■ ガラスビーズ関連    ■ 活性炭繊維関連  
 ■ その他    ■ 機能材事業 営業利益

□機能材  
 [増収・  
 利益横ばい]

### ◆産業用ガラス繊維・クロス

内装材・自動車用途は苦戦も、土木改修などが堅調でカバー。

### ◆ICクロス

超薄物タイプなどの高付加価値品へのシフト、輸出数量増など改善傾向にはあるが、引き続き厳しい状況で推移。

### ◆ガラスビーズ

ロードマーキング用途は堅調、工業用途は震災影響による高付加価値品の受注のずれ込みなどにより減収、反射材用途は欧米の景気悪化と円高により苦戦。

### ◆活性炭繊維

浄水器用途、業務用マスク用途が伸長。

## 衣料のユニフォーム、機能素材が伸長

(金額単位:億円)

	2010.1H	2011.1H	増減
繊維事業 売上高	383	381	▲ 2
産業繊維	116	114	▲ 2
衣料繊維	266	266	▲ 0
繊維事業 営業利益	0	4	3



■ 産業繊維 ■ 衣料繊維 ■ 繊維事業 営業利益

### □ 繊維 〔減収・増益〕

#### ◆ 産業繊維

ポリエステル高強力糸は建築・土木用途堅調。ポリエステル短繊維は円高・原燃料価格高騰の影響で苦戦。

ビニロン繊維はアスベスト代替のセメント補強用途の欧州向け回復が遅れ、新興国開拓も、価格競合・円高で苦戦。

#### ◆ 衣料繊維

ユニフォームが官需・民需とも好調。

差別化糸の売上げ増加。

節電下、秋冬物の保温性機能素材が堅調。

徹底したコスト削減と個別事業の選択と集中により、収益改善が進む。

## 環境プラント事業譲渡などにより減収

(金額単位:億円)	2010.1H	2011.1H	増減
その他事業 売上高	104	59	▲ 45
生活健康・他	39	40	1
不動産関連	36	17	▲ 19
環境	29	2	▲ 27
その他事業 営業利益	▲ 0	▲ 1	▲ 0



□その他  
〔減収・  
利益横ばい〕

### ◆生活健康

ハナビラタケ関連商品など健康食品・飼料原料は堅調。

食品機能素材は、国内の需要低迷などにより苦戦。

メディカルの循環系カテーテルが伸長。

### ◆不動産関連

マンション販売は、概ね堅調。

売上げ減少要因は、前年同期の土地販売による差。

### ◆環境

本年4月1日、日立造船グループに事業譲渡。  
上期の減収影響は約27億円。

■環境 ■不動産関連 ■その他(生活健康等) ■その他事業 営業利益

# 2011年度通期業績予想

(金額単位:億円)	2010	2011	前期比
	実績	予想	増減
売上高	1,807	1,785	▲ 22
営業利益	105	125	20
経常利益	61	80	19
当期純利益	24	35	11

計画策定時与件	当初	見直し
原油(\$/バレル)	90	100
為替(円/ドル)	85	80

※期中の為替変動には適宜対応し、進捗をフォロー

- ◆下期型事業〔不織布(農業・土木用途など)、ガラス繊維・クロスやガラスビーズ(土木などの工事関連)、産業繊維(土木関連)、衣料繊維(ユニフォーム)、その他〕の収益確保。
- ◆2Qに生産能力増強を完了した工業フィルムの生産及び販売の伸長。
- ◆上期に伸長した事業(包装フィルムなど)のシェア確保。
- ◆原燃料価格高騰に対応する価格改定推進による採算確保。
- ◆タイ洪水被害や、欧州を中心とした金融環境の激変もあり、状況は更に厳しくなると認識しているが、現時点では、全体として、通期決算予想は当初予想とおりの着地を見込む。

(金額単位:億円)	2011.1H		2011	
	実績	前年同期比	予想	前期比
減価償却費	27	▲ 3	58	▲ 3
設備投資	56	31	96	52

## ◆設備投資増加要因

ナイロンフィルム新鋭3号機増設(エンブレムアジア社・インドネシア)など。同事業のグローバル戦略は、計画に沿って進捗。

# 2011年度通期業績予想 セグメント別収益変動

(金額単位:億円)	売上高			営業利益			主な増減要因(想定)
	2010	2011予想	増減	2010	2011予想	増減	
高分子	670	710	40	106	108	3	◆上期好調であった包装フィルムの需要の極端な下落はない。 ◆生産能力増強を完了した工業フィルムの生産及び販売が伸長。
機能材	149	155	6	18	21	3	◆ICクロス・ガラスビーズの収益改善。
繊維	771	770	▲ 1	8	15	7	◆衣料繊維の選択と集中、コストダウンで収益改善持続。
その他	217	150	▲ 67	10	14	4	◆不動産(マンション販売)等の収益改善。
消去・全社	-	-	-	▲ 36	▲ 33	3	
合計	1,807	1,785	▲ 22	105	125	20	

## 1. 2011年度第2四半期決算説明概要

- ・グループ事業構成
- ・セグメント別業績の推移(2007年度以降上期業績)
- ・業績の概要
- ・セグメント別業績の概要
- ・営業利益増減要因分析
- ・資産・負債・純資産

## 2. 各事業セグメントの状況と通期予想

- ・高分子セグメントの状況
- ・機能材セグメントの状況
- ・繊維セグメントの状況
- ・その他セグメントの状況
- ・2011年度通期業績予想
- ・2011年度通期業績予想 セグメント別収益変動

## 3. 次期中期計画(2012～2014年度)について

補足資料～ユニチカの事業の特徴

## ◆ 公表時期

未定(2012年3月～5月上旬の間を想定)

## ◆ 考え方

「機能資材メーカー」として、環境変化に左右されない基盤を強化し、国内・海外の顧客の開拓、用途・素材の開発を推進し、着実に収益を拡大する。

## ◆ 施策キーワード

- ☞ 高分子(フィルム、不織布、樹脂)を中心とした成長戦略の推進
- ☞ 繊維の収益安定化
- ☞ 研究開発の強化
- ☞ 更なる基盤強化のための事業の「選択と集中」の推進

## 1. 2011年度第2四半期決算概要

- ・グループ事業構成
- ・セグメント別業績の推移(2007年度以降上期業績)
- ・業績の概要
- ・セグメント別業績の概要
- ・営業利益増減要因分析
- ・資産・負債・純資産

## 2. 各事業セグメントの状況と通期予想

- ・高分子セグメントの状況
- ・機能材セグメントの状況
- ・繊維セグメントの状況
- ・その他セグメントの状況
- ・2011年度通期業績予想
- ・2011年度通期業績予想 セグメント別収益変動

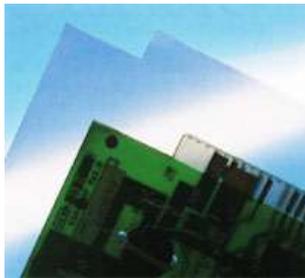
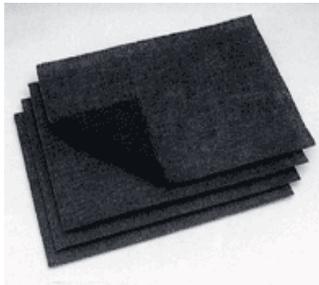
## 3. 次期中期計画(2012～2014年度)について

**補足資料～ユニチカの事業の特徴**

## グループの主力事業

	フィルム	樹脂	不織布
主要 製品 (用途)	<p>包装</p> 	 <p>自動車 部品</p>	 <p>カーマット基布 農業用被覆材</p>
	 <p>工業</p>	 <p>精密機器</p>	 <p>生活雑貨</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ナイロンフィルム</li> <li>◇ポリエステルフィルム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ナイロン樹脂</li> <li>◇ポリエステル樹脂</li> <li>◇ポリアリレート樹脂</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ポリエステルスパンボンド</li> <li>◇綿スパンレース</li> </ul>

## ガラス関連、活性炭繊維など特徴のある無機系素材の販売

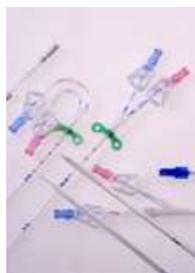
	ガラス繊維	ICクロス	ガラスビーズ	活性炭繊維
主要 製品 (用途)	 車両電照カバー	 プリント基板	 ロードマーキング	 活性炭繊維フィルター
	 産業用ガラスクロス			

## 事業構造改善を推進中

	産業繊維	衣料繊維
<p>主要 製品 (用途)</p>	 <p>産業資材用 ポリエステル 繊維</p>	 <p>ユニフォーム スポーツ衣料 婦人衣料</p>
	 <p>ビニロン繊維 (セメント補強用途)</p>	
	<p>◇ポリエステル高強力糸 ◇ポリエステル短繊維 ◇ビニロン繊維                   等</p>	<p>◇ユニフォーム ◇一般・婦人衣料素材 ◇スポーツ衣料素材                   等</p>

## 食品機能素材・カテーテル等の販売を強化中

### 主要 製品 (事業)



抗血栓性  
カテーテル



創傷被覆保護材  
ベスキチン



健康補助食品



ユニハイム



ヒーティング  
システム



ソフトウェア設計

◇生活健康  
医用材料、健康補助食品 等

◇不動産関連

◇設備技術  
◇情報システム  
◇環境分析 等

※シェアは当社推定

	製 品	シェア	主な用途 等	当社の強み
		国内		
高分子	ナイロンフィルム	50%弱 (1位)	食品包装用 (世界シェア1位;25%)	同時2軸延伸技術 クイックデリバリー
	ポリエステルспанボンド	40% (1位)	自動車内装、建築、土木、農業資材 衛生材料、生活資材	複合繊維化技術
	綿спанレース	50% (1位)	衛生材料、生活雑貨	バインダー・レス 天然素材の風合い
	ポリアリレート樹脂	当社独自	自動車部品、電気・精密機器部材	耐熱性・透明性
機能材	ガラスクロス（産業用）	30% (2位)	フィルター素材、FRP用、建築、土木資材	製織・製織技術
	ガラスビーズ	35% (2位)	各種反射材、工業用ビーズ	商品の品揃え
繊維	ポリエステル短繊維（バインダー）	60% (1位)	建材、家具、自動車内装向け不織布原料	複合繊維化技術

## ご注意

**本資料中の予想は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいております。実際の業績は、今後の種々の要因によって異なる結果となる可能性があります。**